

Phytophthora nicotianae によるポインセチア疫病*

兵庫県立農林水産技術総合センター **神 頭 武 嗣**

はじめに

2003年8月、兵庫県内で、ポインセチア (*Euphorbia pulcherrima*) の葉柄、茎が灰褐色に変色し、全身が萎凋、落葉する症状が発生した。ポインセチア生産農家は「毎日、灌水をしっかりしているのに、株が次々と枯れていく。何か病気ではないか。」と考え、罹病株が兵庫県立農林水産技術総合センターに持ち込まれた。早速、ポインセチアを観察すると、茎や葉柄部分が灰褐色に変色していた(図-1)。聞き取りによると、十分に灌水がなされていたことと水はけがよく、pH・ECとも問題のない培土を使用していたこと、症状を呈するポインセチアが徐々に広がっていったことから、病害の可能性が高いと考えられた。当時の日本植物病名目録で確認したところ、該当する病害の記載がなかったことから、原因の究明を試みた。

I 菌の分離

病斑部と健全部の境界部分を5mm長に切り、70%エタノール30秒、1%アンチホルミン2分で表面殺菌後、滅菌蒸留水で2回洗浄し、余分な水分を滅菌ろ紙上で拭

き取った後、素寒天培地に置き、伸び出た単菌糸を分離し、分離菌株を得た(KASA001~003)。検鏡したところ、隔壁のない粗でぎこちない分岐のある菌糸と、遊走子のうらしき器官が確認されたことから、卵菌類の可能性が高いと見て、その後の診断作業を進めた。

II 病原性の確認

得られた菌株のうち、KASA002と003について、YOSHIMURA et al. (1985) に従い、9cmシャーレのV8ジュース寒天培地上で培養し、菌そうがシャーレ全体に広がったところで、滅菌蒸留水を8ml注ぎ、蛍光灯照射下で1週間培養した。水は、毎日取り替えた。菌そうを滅菌蒸留水中で白金耳を用いて細かく砕き、二重ガーゼでろ過して得られた遊走子をカウントし、遊走子濃度を $10^4/ml$ に調整し、ポット植えのポインセチアに噴霧接種した。これを24℃の湿室条件下に置いたところ、原病徴が再現され、接種菌が再分離された。

III 病原菌の同定

V8ジュース寒天培地で生育した菌糸上に滅菌した麻の種をまき、菌糸が種にまわりついたところで、滅菌

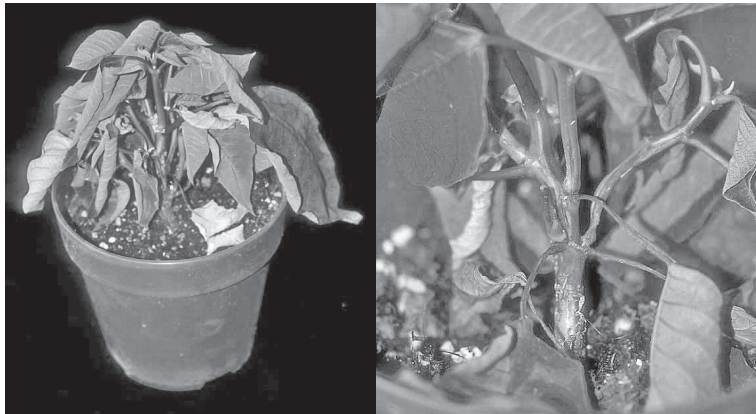


図-1 ポインセチア疫病による萎凋症状 (左: 全体図, 右: 拡大図)

Occurrence of *Phytophthora* Blight on Poinsettia Caused by *Phytophthora nicotianae*. By Takeshi KANTO

(キーワード: ポインセチア, 疫病)

* 本誌第67巻第10号(2013年)に掲載したもの。